

令和5年度第2回学校運営協議会を開催しました

10月18日（水）、令和5年度第2回学校運営協議会を開催しました。

今回は、第6校時の授業を参観した後、学校運営協議会委員と第十小学校の教員で話し合いを行い、学校の課題について考えました。

出席者

近藤区長 西公民館長 館林市国際交流協会前会長 学校支援ボランティア
六郷地区青少推会長 民生委員 主任児童委員 西公民館活動推進委員（2名）
西幼稚園長 第三中学校長 多々良中学校長 第十小学校長 第十小学校教頭
第十小学校教員（11名） コミュニティ・スクールディレクター

学校運営協議会の内容

- （1）報告「第1回学校評価の結果について」
- （2）学校運営協議会委員と教員との話し合い
- （3）学校運営協議会委員による熟議

協議・熟議での意見

「タブレットを使った授業について」

- タブレットを使った授業を初めて見た。どの先生もパソコンを使って当たり前のように授業をしているのを見て、先生方が大変な研修を積んで今の授業ができるようになったのではないかと感じた。
- タブレットを活用して効率よく学習していたが、タブレットがうまく使えていない児童もいた。先生が全体に目を届かせながら授業をすることの難しさを感じた。

「外国籍の児童の指導について」

- 十小の子どもは、外国籍の子どもたちと自然に関わっていて、壁がない。一緒にいることが当たり前と感じている。
- 外国籍の子どもの中には、授業の中で同じように理解できない子どもが多くいて、細かく支援する必要があるが、なかなか時間が取れない。
- 授業が分からない子どもをサポートしてくれるボランティアの方はいるが、ずっといてくれ

るわけではない。授業をしている教師がその子どもに付きっきりになるわけにはいかないの
で、日本語学級で勉強するときに補えるよう連絡を取り合っている。

○日本語学級に来ている子どもの中には、なかなか教室と一緒に授業を受けられるようにな
らない子もいる。ボランティアの方にも協力していただいているが、様々な状況の子がいて、
その差を埋めることが難しい。

○中学校でも同じような課題をかかえている。全く日本語を話せない子どもや個別の指導を必
要とする子どもへの支援ができるボランティアが不足している。共通の課題と一緒に取り組
んでいけるといい。

○外国籍の子どもの保護者と教員とのコミュニケーションの取り方に課題を感じている。親が
思春期の子どものことや進路のことについて悩んでいても相談ができない。そういった保護
者同士のコミュニティーができるといい。小学校からそういった組織ができて、中学校につ
ながっていくといい。

「地域とのつながりについて」

○コロナのために地域と関わる学習が全くできなかった。地域との繋がりが希薄になり、自分
たちの地域という認識が薄くなった。保護者も子どもを通して地域を知ることができ
なくなっている。体験に勝る学びはないので、地域での体験活動が再開できるようにしてい
きたい。

○昨年、4年生が防災マップ作りで地域の方に大変お世話になった。地域に出て行って体験的
な活動がさらにできるといいと考え、今年は、5年生が近藤町の工業団地にある五つの会社
の見学を行う。引率する職員が足りないので、ボランティアを募ろうと考えている。お力を
貸していただけるとありがたい。

○地域に素晴らしい施設があるのに活用していないことがもったいないと感じていた。昨年は
公民館で参加者を募って実施したが、今年は学校として取り組んでもらえて、たいへんあり
がたい。

○保護者にボランティアをお願いしようと考えているが、学校運営協議会委員の方にも協力し
ていただけるとありがたい。



授業参観（タブレットを使った学習）



学校運営協議会（教員との話し合い）